

大分県広域防災拠点基本計画について

東日本大震災の教訓

○広域応援体制の確立

地域ブロック全体が広域的に被災することを前提とした、より広域的な救助・救援システムの構築が必要。



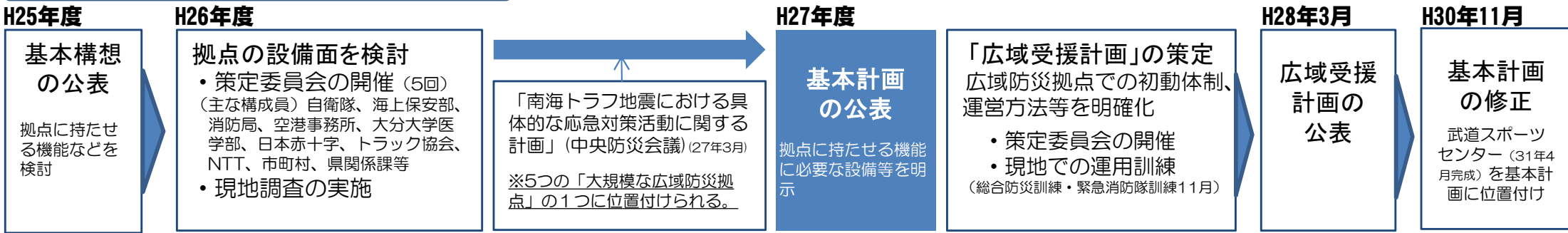
大分県の被害想定

南海トラフ巨大地震（冬～18時）

- ①死者数 約22,000人
 - ②負傷者数 約6,300人
 - ③最大避難者数 約16万9千人
（うち避難所生活者数約11万人）
- （「大分県地震津波被害想定調査報告書」（25年3月））

※発災時に県内外からの救援を円滑に受け入れ、的確に被災地へ届けるための防災拠点と運用計画が必要

計画策定の経緯



計画の概要

(1)国・被災のない都道府県等からの救援

物資
食料、毛布、粉ミルク、おむつ、簡易トイレ、トイレトイペーパー、生理用品など約550トンの救援物資

部隊
・警察庁、消防庁、防衛省からの派遣（約2,400人）
・日本DMATの派遣

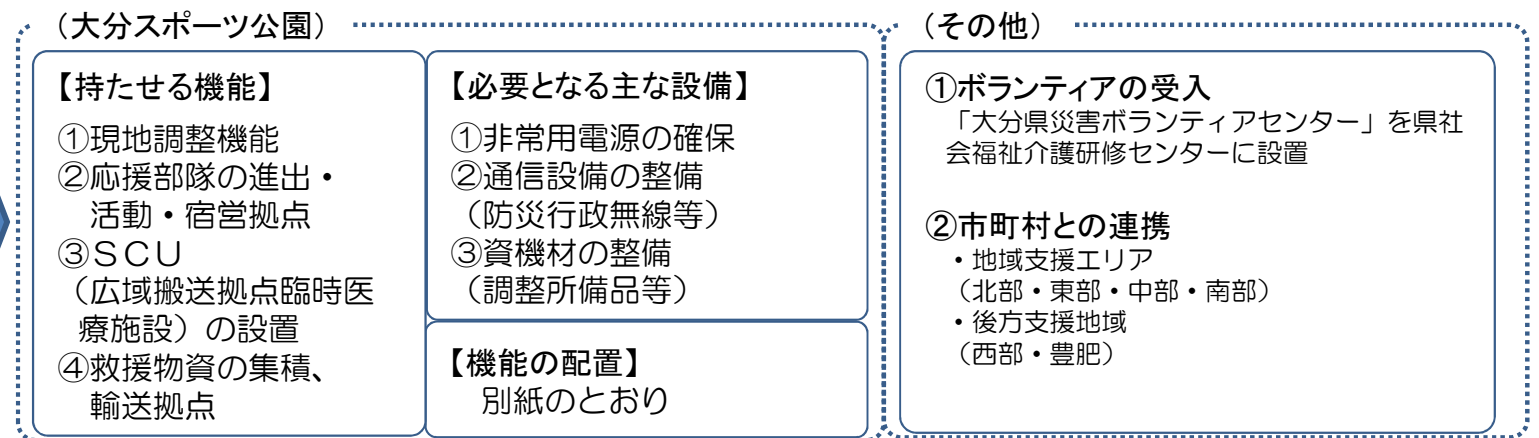
受入

「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」（中央防災会議）から推定

(2)協定団体・ボランティアなど民間からの救援

大分県広域防災拠点

【基本的な考え方】→ 既存施設を最大限に有効活用



広域防災拠点における主な機能の配置について

大分スポーツ公園の4つの機能

- ① 現地調整所機能 (指令、調整、情報収集等)
- ② SCU機能 (広域搬送拠点臨時医療施設)
- ③ 救援物資の集積・輸送機能
- ④ 応援部隊の進出・活動・宿営機能



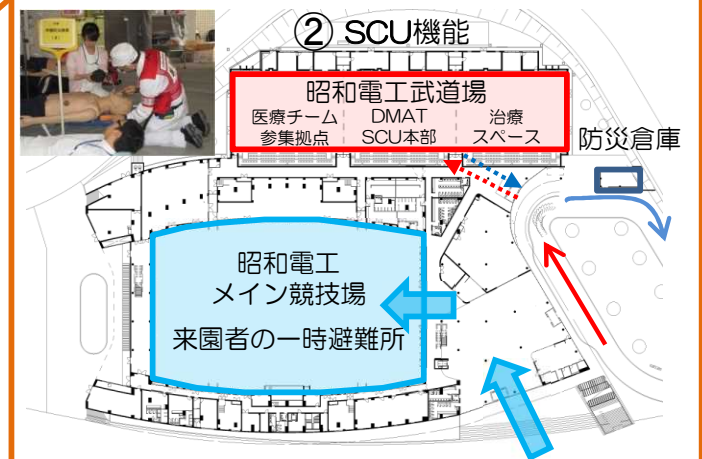
周辺施設の活用

- 来園者の一時避難所
- 県立情報科学高校
- 来園者の車両は、県立情報科学高校及びC駐車場へ移動

④ 応援部隊の進出・活動・宿営機能

- 自衛隊：昭和電工スタジアム (軟式野球場)
- 消防：テニスコート、多目的広場
- 警察：サッカーコート等 (B・C・Dコート)

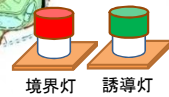
昭和電工武道スポーツセンター



駐車場に臨時給油所を設置



ヘリポートに夜間照明設備 (移動式) を配備



昭和電工ドーム大分

① 現地調整所機能

国の現地対策本部等 (IBSCU)



③ 救援物資の集積・輸送機能



昭和電工ドーム大分

昭和電工
武道スポーツセンター

昭和電工
メイン競技場

昭和電工
武道場